

【第4回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録】

4 議事

(1) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)について

【ビジョン(案)の修正点を説明】

井田会長「それではまず、表紙から2ページまでについて、御質問・御意見等ありませんか？」

五木村「1ページの“取組”には送り仮名は要らないのか？」

事務局「“取組む”などの動詞であれば送り仮名は入れるが、“取組”という名詞であれば付けないということで統一させてもらっている。」

白柿委員「2ページの中心市宣言の2行目、“国におきまして”は“国において”ではないか？その前の“まいりました”も“きました”になっているので。」

事務局「御意見のとおり修正する。」

五木村「2ページの1行目。“10月から”の後ろに読点を入れたのはなぜか？」

事務局「文章が続くので、分かり易くするためここに入れた。」

五木村「同じく2ページの沿革にある“わたり”は漢字の方が良くはないか？」

事務局「この“わたり”は、ほかでも平仮名表記しているので、事務局で検討させて欲しい。」

深水委員「今、検討しているのは、文字や表現についてか？そういったのも大事であろうが、個人の感性が影響してくるだろうから、余り細かい点については良いのではないか？中身について大きく間違いがないかとかの検討で良いのでは？」

井田会長「これはやはり後々残るものだから、自分で書いたものは間違いに気づかないこともあるので、いろんな御意見を、少なくとも気づいた点があれば教えて欲しい。あと、沿革の1行目“住み着き”は、狩猟からは普通、“定住し”と言い回すので、そちらの表現が良い。」

事務局「御意見のとおり修正する。」

井田会長「3ページから7ページまでについて、御質問・御意見等ありませんか？」

多良木町「4ページの4行目“ます”は、もう27年なので過去形の“ました”にして欲しい。」

事務局「申し出のとおり変更する。」

井田会長「8ページから11ページまでについて、御質問・御意見等ありませんか？基本的にはデータを新しくし、見やすくし、整合性のあるものにしたと思う。9ページ上部のグラフには高齢化率だけに“%”の単位が入っている。これは意味があるのか？高齢化率について強調するため、このようにしたのか？」

事務局「それもあるが、下の方は数字が狭いところに集まるため、見にくくなるかと思い単位を省いた。しかし、万人の単位も入れていないので、“%”という表示を削除して揃える。」

井田会長「また、右の“%”の横に高齢化率、左の万人の横には“人口”と入れた方が良いのでは？」

事務局「そのように挿入する。」

井田会長「12ページから13ページまでについて、御質問・御意見等ありませんか？12ページの産業振興、企業誘致の推進は、線が繋がっていない。」

事務局「そのように繋ぐ。また、同じく13ページの“水上村乗合タクシー事業”と“コミュニティバス運行事業”についても線が繋がっていないので、こちらも修正する。」

井田会長「14 ページから 46 ページまでは具体的な取組内容だが、ここは、1 ページごとに進みたい。14 ページについて質疑・御意見はありませんか？(同じように 46 ページまで)

外山委員「“附属”は付くのか？“人吉市医師会”ではないのか？」

事務局「人吉准看護学院のホームページの入学案内など、正式な部分から引用した。」

外山委員「医療従事者育成支援事業は、圏域で取組まないと存続の危機にある。現在、球磨郡からも支援を頂いているが、更なる支援をお願いしたいが、どのようにしたら良いか？また、人吉市には 8,500 万円、球磨郡町村にはそれぞれ 1,500 万円ずつ来ると言うが、それはどこに回っているのかという説明を、分かるようにして欲しい。ずっと同じことが書いてあって、行政が全然付いていない。地域医療構想とか地域包括ケアシステムの構築とか御存知か？これが高齢化に向けた最たる取組。」

告吉次長「球磨郡の方は町村会があり、そこで各種団体への補助金を一括して審査しているので、そちらの方に申請を。」

五木村「各種団体への補助については、まず、1 月末に総務課長達で予算査定し、その後、首長の査定を受ける。補助の増額を希望するのであれば、その前段の町村長会でお願いする必要がある。町村会の事務局に一度お話をされたらいいと思う。」

井田会長「以前の懇談会でも出たとおり、重要な案件。すぐに看護師は育たないので、市町村で少なくとも 5 年先を見て、喫緊の課題の一つであるとの問題意識を持って、予算編成で賄うといった形にならざるを得ないのかなと思う。」

外山委員「16 ページの産科・小児科医療体制維持検討・支援事業だが、現在、公立多良木病院には産婦人科はない。人吉医療センターは、今回増員して 5 名体制になる。その中から週に 2 回産婦人科の先生を派遣することになっている。循環器・呼吸器も公立多良木病院にはないので、人吉医療センターへの依存度がかなり高くなってきている。産科の先生というのは、定住にとって非常に重要で、住民が地元で安心してお産ができるというのは大事。ここに謳ってあるのと現実とは違っているが、この前のことがそのまま載っており、ほとんど内容が変わっていない。現実とは変わってきているので、その辺を斟酌してビジョンを書いて欲しい。」

深水委員「ビジョンは毎年見直すということで、今回は 45 項目を検討して意見を出してという流れになっているのだろうが、今のように意見が出た場合、その取扱いは 45 プラス 1 で入れるのか、それとも考察を投げ掛けとして、毎年度の見直しで入れたり入れなかったりするやり方でいくのか？ビジョンの進め方や、新たな意見を欄外に入れていくのか？教えて欲しい。」

事務局「以前にもお話ししたが、基本ベースとして 45 事業からスタートをさせていただきたいという点と、皆様から出た御意見について、すぐ、このビジョンに溶け込ませることができるものは、初年度の段階から当然入れていくことができる。頂いた御意見の中には、十分な検討・協議が必要なものが多くあるので、人吉市だけで決定が可能なものであればスピーディにできるが、市と 9 町村の協定を結んでやっているの、協定にないものは議会の議決を経て、新たな事業展開を図っていかなければならない。7 月から 27 年度のスタートを切りたいとスケジュールを組んでいるので、こういった形で進めさせていただきながら、皆様から頂いた御意見については、各町村と協議を経て、毎年の見直しの中で追加というのが前提。単純に数字を入れ替えるのではなく、新たな項目を追加していくということ。それについては予算や事業の内容、体制、どこと連携するのか？民間との協議などの組織の問題もあるので、そういったものについて問題をクリアしながら、来るべきときに、28 年度であれば 28 から、時間を要するものであれば 29 年度からといった形で、事業を追加するという形で考えている。今始めてい

る 45 事業は、元々組織があって、そこをベースに事業をしているということで進めて来たが、今までやってないような事業をする場合は、まず担当課を決めて、どこと連携してやっていくのか？組織的な問題等も各自治体にはあるので、どういう風に、どういったやり方でいくのかというところを踏まえた上で、協議等を進めさせていただきたい。当然、皆様から頂いた御意見については、極力反映させる形で行きたいと考えているので御理解をいただきたい。」

井田会長「各委員から出た大部分については、今、上がっている事業の中で対応できるものだと思う。全ての事業について“関係機関と行政が協議を行う”となっており、当然、執行機関は行政サイドで行うが、運用については、より、どういった形がベストなのか？といったことを関係機関と調整の上、執行されると思うが、恐らく対応可能なのが多々あると思うので、事業を立てるというよりは、今ある事業の中で、運用部分で対応すればかなりの部分が対応可能だと思う。ここに書かれているように、関係機関と調整を行った上で、どのような運営をするのかといった部分ではないかと思うので、その部分、事務局を含め関係市町村に意見調整を行ってもらえればと思う。」

中村委員「22 ページの地域療育センター事業について。球磨人吉には就労支援型のA型B型が 5 か所くらいあるかと思う。山江村にも療育手帳を持っておられる方がいるが、この療育手帳を持っている者がA型B型に希望したら簡単に入れるのか？施設にも定員があるので、簡単に入れないものなのか？また、補助金が出ているが、これは施設にも行くのか？」

事務局「第2回第3回ビジョン懇談会において、各部会が参加して各事業について説明し、御検討をいただいたところ。今御質問のあった件については、本日は部会も参加しておらず、事務局ではお答えしかねるので宿題とさせて欲しい。」

深水委員「ブロッコリーのところ。関係市町村は全市町村なっているのに、概算事業費に挙がっているのは錦町だけ、ほかの市町村は“未定”となっており、これから取組んでいくのかな？と思うが、これは国の方から指摘を受けるのでは？」

事務局「以前も説明したが、ブロッコリーはJAくまが推進している。現段階で作っている市町村もあるが、くま農業活性化協議会において確定していない状況と聞いている。JAくまが推進しているということもあり、今後は、各町村とも進めていくと考えているが、正確な数字が出ていない。また、以前の御意見でもあったとおり、ブロッコリーは栽培等が人吉球磨ではどうか？ということもあり、地理的要因等も含めたところで検討されている段階と思われる。ここが“未定”であるから国から指摘を受けるということはない。推進を進めていくという位置づけで載せさせていただいている。」

井田会長「錦町だけが、経費の負担だけの協力でなくても、いろんな形で関与していくことも可能と思う。JAくまですのだから 10 市町村で連携ができるのだと考えれば、何かしらネットワークがあればそれを書けばいいので、今後については担当の方で進めていただければと思う。」

外山委員「公共交通は商業的なことばかりだが、医療に非常に密接な関係がある。郡部から高齢者が治療に来られるが、『一番安いのは治療費。』と言われる。大概 1,000 円以下。次に調剤で数千円。タクシー賃は大畑から 5,000 円で、往復 1 万円と交通費が一番高い。昔みたいにバスがないから高齢者は通院ができない。それでコンパクトシティが全国的に言われているが、ネットワークづくりの中に医療・介護の分野も入れてもらえればと思う。」

事務局「35 ページの「人吉・球磨地域公共交通網形成計画」等策定事業において、国からの補助金を頂きながら、圏域の交通網の再編を含めながら、いろんな利用者の利便性の高い公共交通体系の

構築を図っていく。そこでもいろんな分野の委員さんを入れての計画策定となっていくであろうから、こちらから部会事務局サイドに伝えておく。」

白柿委員「35 ページの「人吉・球磨地域公共交通網形成計画」等策定事業の補助金の項目が前回と変わっている。どちらが正しいのか？“それぞれ”とあるので、地域公共交通調査事業の方にも必要なのでは？」

事務局「御指摘のとおり。上の地域公共交通調査事業の方にも、下の方にも“国費 2,000 万円を上限に事業費 8 割補助見込み”と入り、並ぶ形になる。」

事務局「44 ページの外部専門的人材等活用事業だが、地域おこし協力隊等について五木村が今年度から取組もうとしているが、ここに数字等入っていない。今、部会の方で市町村に照会をかけており、あさぎり町なども 28 年度から 3 人ほどと聞いているので、第 5 回のビジョン懇談会にははっきりしたものをお示しできると思う。」

井田会長「47 ページから最終ページまでについて、御質問・御意見等ありませんか？」

【質問・意見なし】

(2) 各委員からいただいた御意見について

【資料①により説明】

鳥越委員「この意見については、先ほどのとおりこの共生ビジョンには反映されずに、今後、協議とか部会の中での参考資料としていくということか？ 確認です。」

事務局「はい。そういったことで行きたい。」

鳥越委員「意見をいくつか書いたが、レジ袋のことも書かせてもらった。『担当者にはちょっと厳しいかな？』とは思ったが…予算が伴わない事業で挙がってきているが、担当者が集まって、時間を割いて話し合ってきたのであろうが、『このように効果が少ないものに時間を割いて…というのもどうか？』と思う。また、部会の考え方の中で、『人員や時間などの不足などで余力がない。』と記載してあるが、だからこそ、この 10 市町村で協力してやっていくべきだというのが根底にあるのだと思う。ぜひ認識を変えてもらいたい。意見です。」

竹原副会長「五木村の地域おこし協力隊に 3 人入ったが、女性だけであったと思う。なぜ女性だけ雇ったのか？」

五木村「当初、三大都市圏や過疎地域以外から 6 名の募集をかけて、応募が 6 名あった。6 名であったが、そのうち 3 名は、いわゆる都市圏ではないところ、過疎地域からであった。ちなみに球磨郡内からも応募があった。結果的に 3 名の方が東京都・福岡県・宮崎市からおいでいただいた。女性に限っての募集は掛けていなかったが、結果的に女性 3 名になってしまった。」

竹原副会長「その方々は五木村にずっと住まれるのか？ 任期は 1 年か？ 結婚されたら地域おこしになるのでは？ 女性の方が男性よりもきめ細かなところがあるので、それで女性の募集を掛けたのか？ と思ったので質問した。」

五木村「女性の方の方が、地域おこし協力隊には積極的に応募してこられるようである。以前、緑のふるさと協力隊の時にも女性の応募が主だった。地域おこし協力隊は、通常、1 年契約だが最大 3 年間に延長できる。3 年の内に、五木村に魅力を感じて住んでいただければと思っている。」

(3) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン(案)に係る意見募集(パブリックコメント)について

【資料②により説明】

【質問・意見なし】

5 その他

【第5回ビジョン懇談会日程等について説明】

以上、2時間18分19秒